

# 1 調査・記録部

## (1) 調査・記録部の取組

算数についての児童の実態・意識を調査するためにアンケートを行った。具体的に次の4点に取り組んだ。

- ①アンケート内容の検討
- ②アンケートの作成・集計
- ③集計結果の考察
- ④アンケートの反省と修正

## (2) 具体的な取組

本年度のアンケートは昨年度の内容を引き継ぎつつ、新たに「伝え合いに関する問い」を追加した。傾向を見やすくするため、一問一答方式にした。理由は、伝え合いの場面の工夫や仕方について研究を重ね、その成果をみるためである。

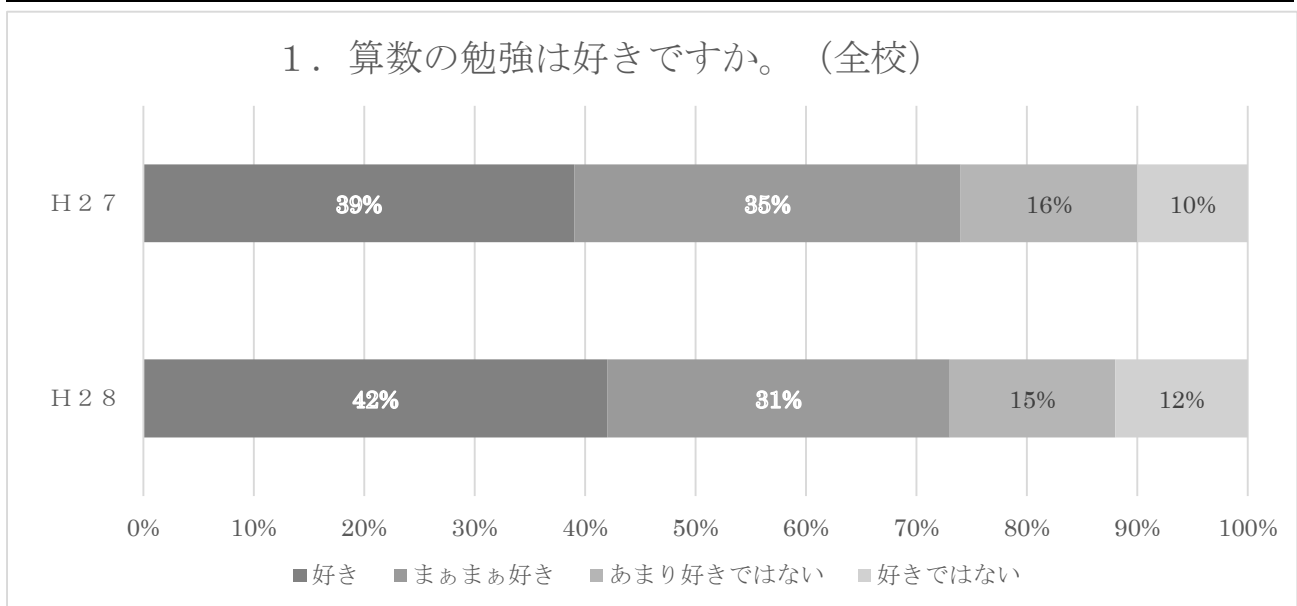
## (3) アンケートの結果

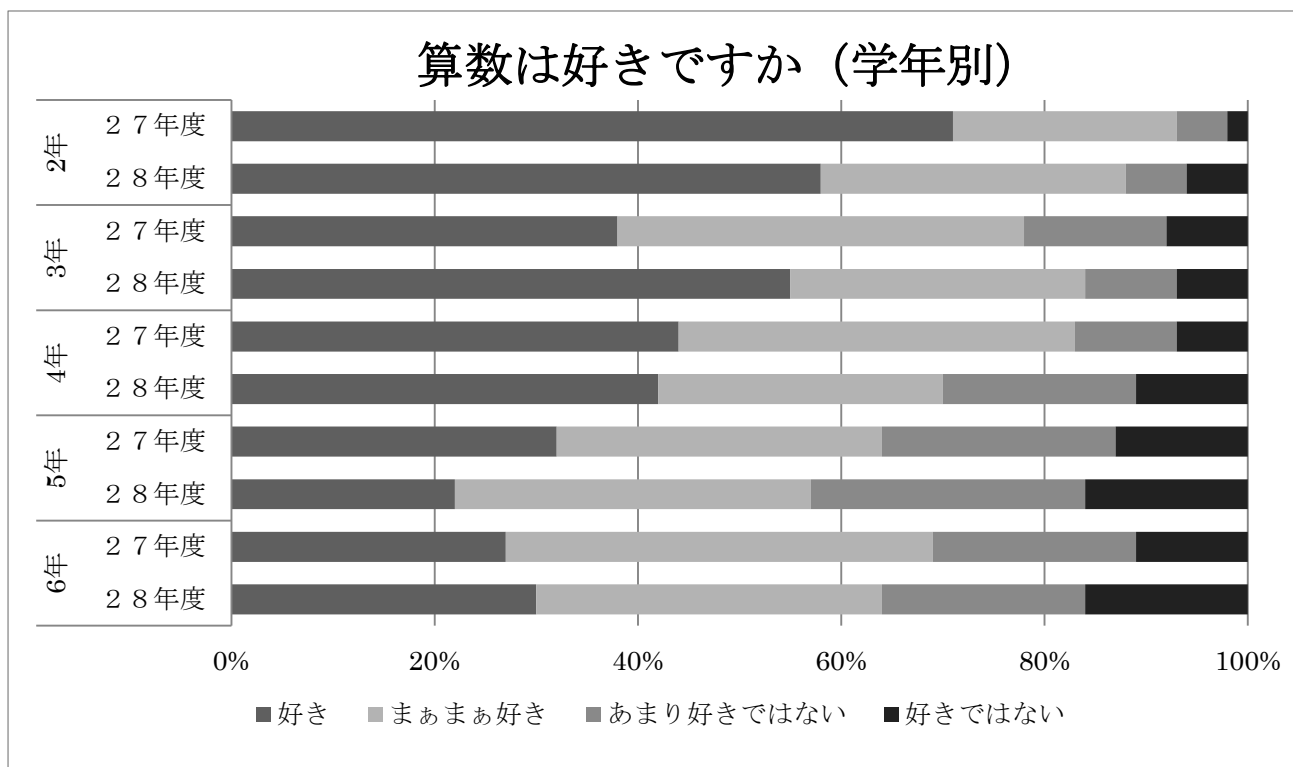
### (ア) 算数についての意識調査

昨年度の12月と今年度の7月にアンケートをとった結果を比較した。

#### 1 算数の勉強は好きですか。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
好き	70	79	70	63	32	50	364
まあまあ好き	35	42	37	42	51	56	263
あまり好きではない	12	8	11	28	39	32	130
好きではない	17	8	9	17	23	26	100



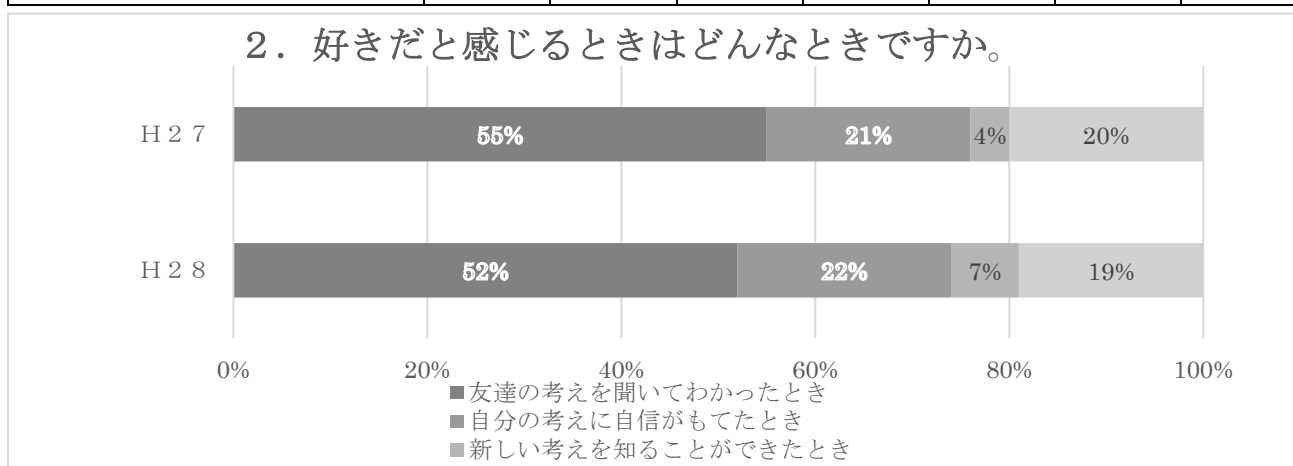


#### 考察

算数に対するイメージが昨年度と比べて、大きな変化はなかった。しかし、「好き」と答えた児童が増えた。

## 2 好きだと感じるときはどんなときですか。（人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
自分の力でできたとき	52	48	56	83	90	114	443
自分の考えを発表できたとき	33	41	39	27	29	18	187
友達の考えを聞いたとき	28	6	5	7	2	9	57
生活の役にたったとき	25	42	27	34	22	13	163

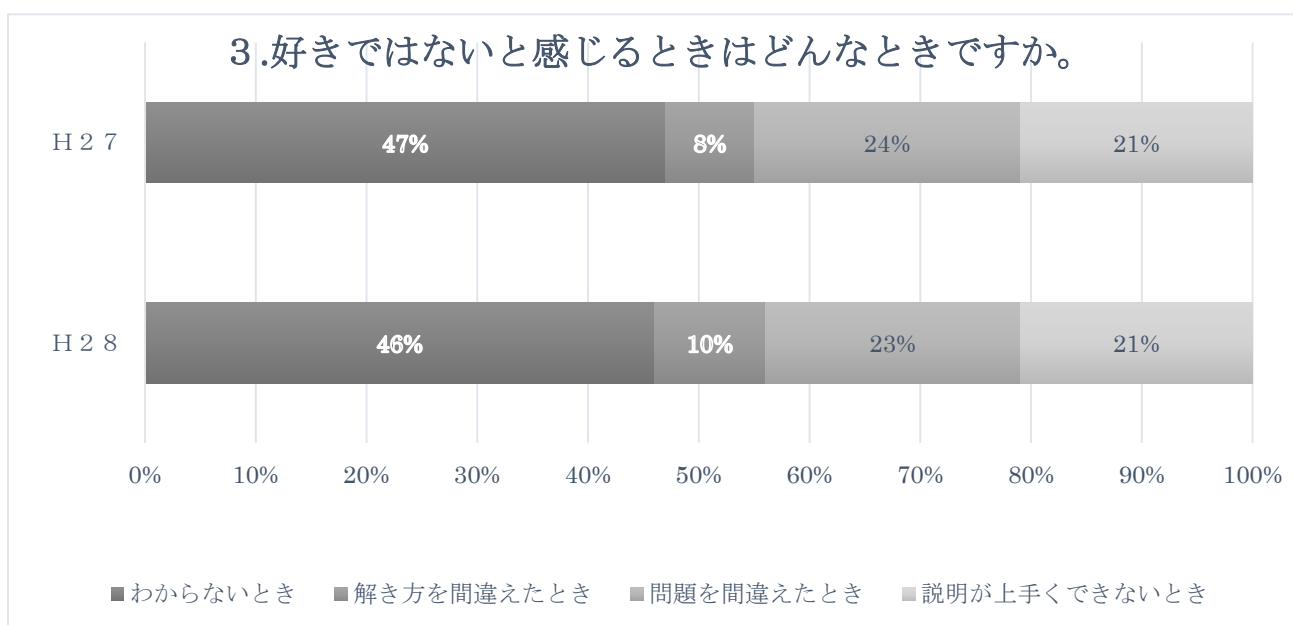


#### 考察

伝え合いを授業に積極的に取り入れたことで、「友だちの考えを聞いたとき」に喜びを感じる児童が増えた。

### 3 好きではないと感じるときはどんなときですか。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
わからないとき	56	60	48	65	63	91	383
解き方を考えているとき	18	15	14	10	13	10	80
問題を間違えたとき	37	28	23	35	40	30	193
説明が上手くできないとき	23	18	42	40	26	23	172

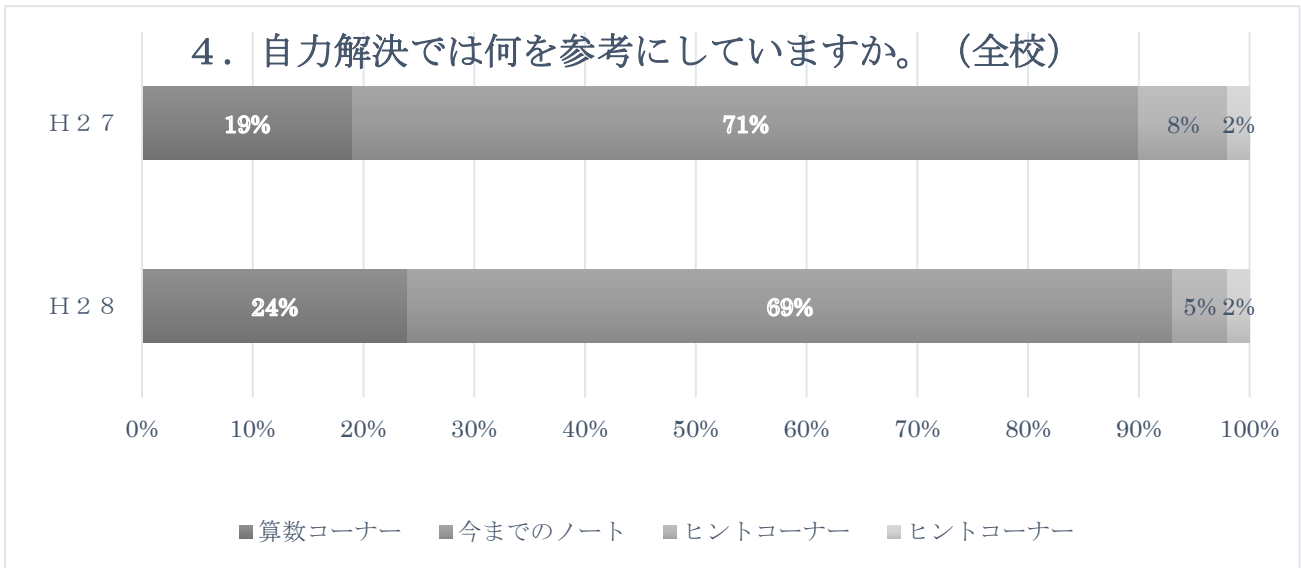


#### 考察

昨年度と比べて、あまり変化は見られなかった。しかし、依然として「わからないとき」と答える児童が多いので、わからない児童がわかるようになる手立てを今後も行っていきたい。

### 4 自力解決では何を参考にしていますか。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
算数コーナー		75	44	21	15	16	171
今までのノート		46	71	121	118	139	495
ヒントコーナー		14	10	5	6	0	35
ヒントカード		2	2	3	4	0	11

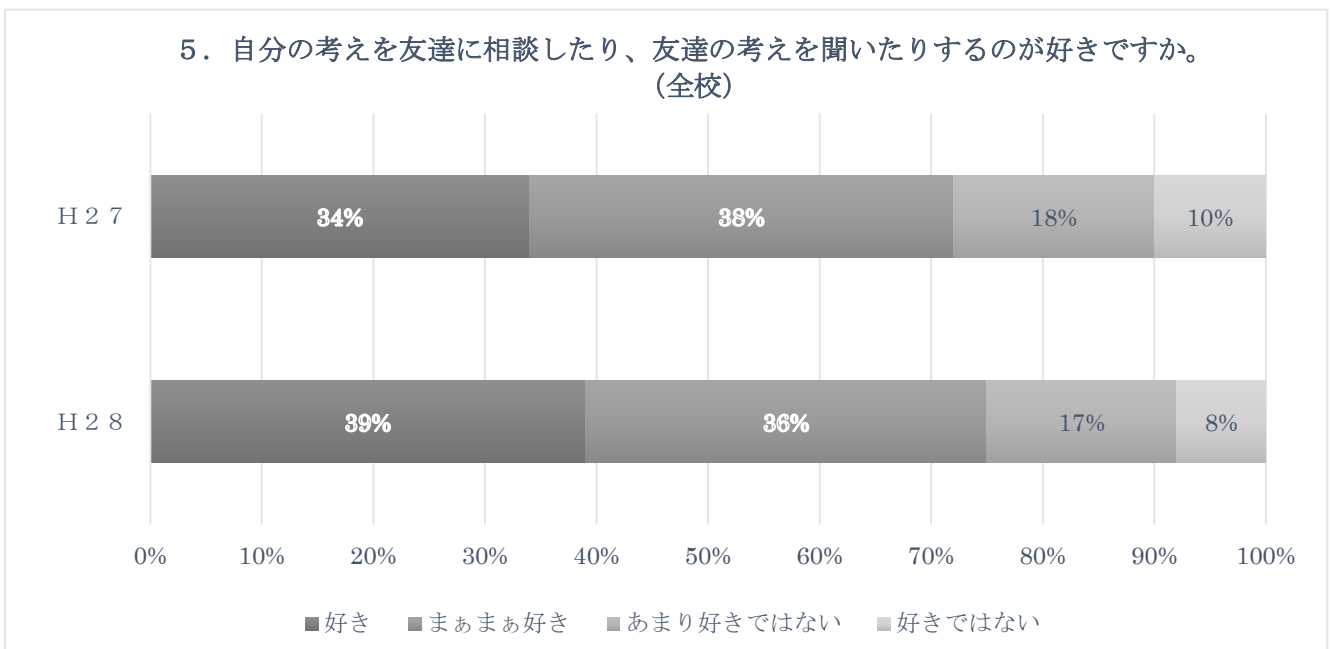


考察

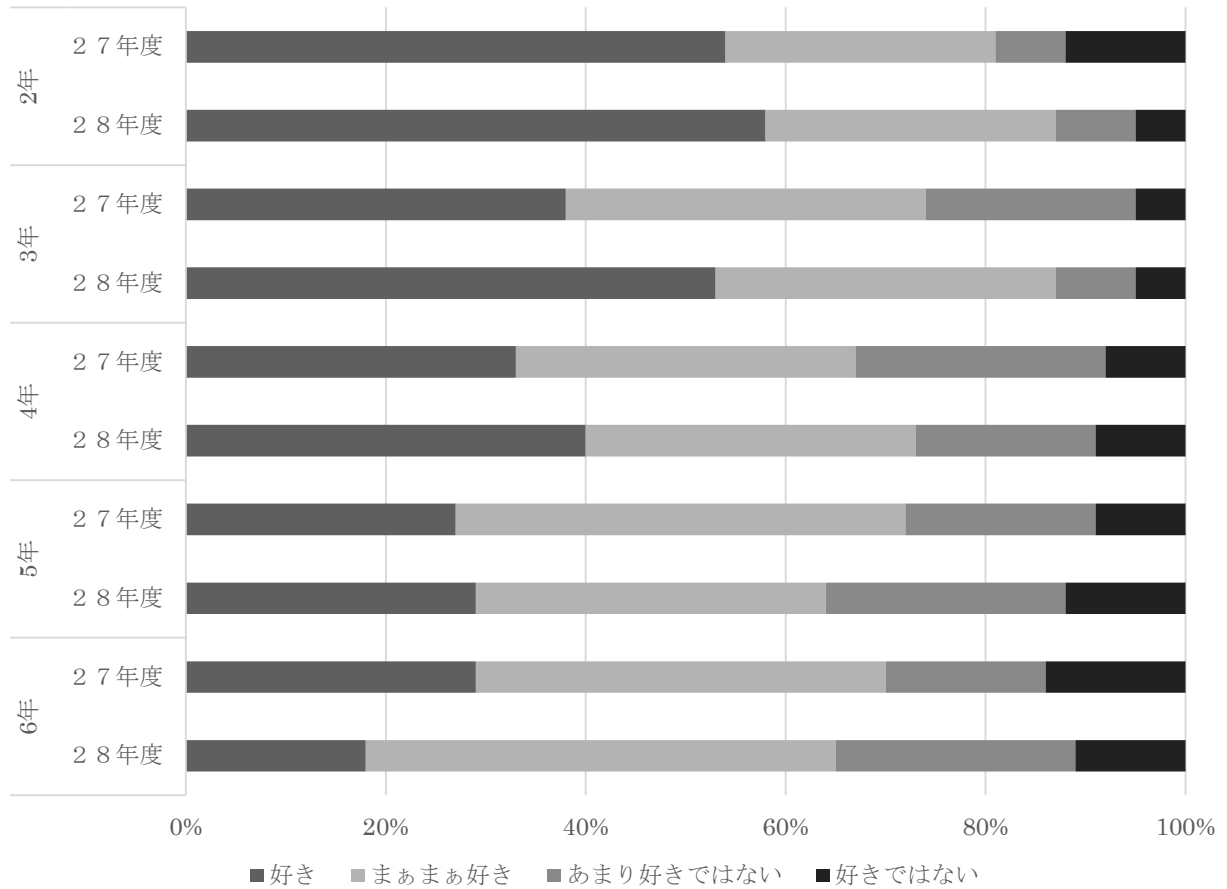
昨年に引き続きおおむね学年が上がるほどノートを参考にしていることが分かる。「算数コーナー」と答える児童は昨年度よりも約5%増え、学校で取り組みを続けた成果といえる。

### 5 自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを聞いたりするのが好きですか。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
好き		79	67	61	42	28	277
まあまあ好き		40	44	50	51	73	258
あまり好きではない		11	10	27	35	37	120
好きではない		7	6	14	17	17	61



5. 自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを聞いたりするのが好きですか。(学年別)



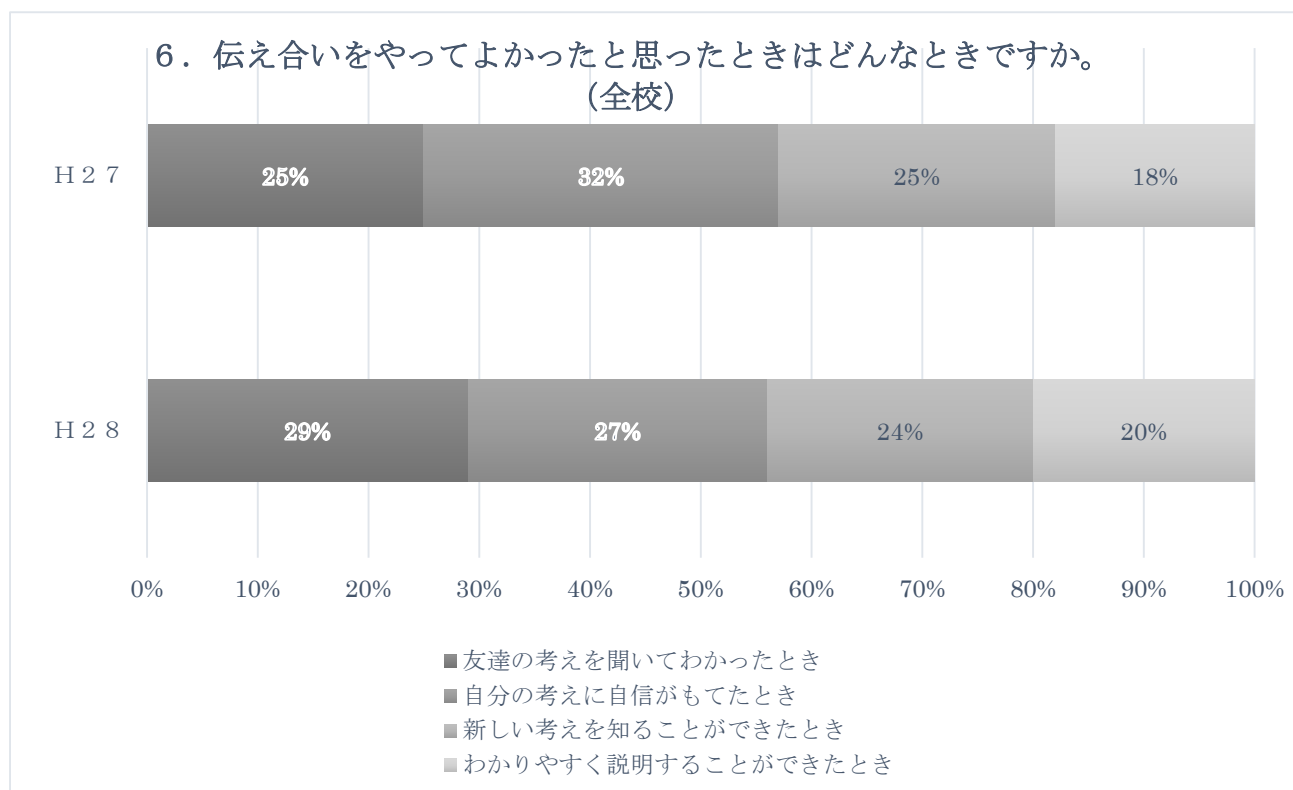
考察

「好き」・「まあまあ好き」と答えた児童は75%と、昨年度よりも増えており、研修の手立てが効果的に機能しているといえる。また、様々な場面で伝え合いを入れたことも効果があったと考える。

※1年は7月の時点では伝え合いを行っていない。

## 6 伝え合いをやってよかったと思ったときはどんな時ですか。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
友達の考えを聞いてわかったとき		52	29	26	44	58	209
自分の考えに自信がもてたとき		33	31	47	39	42	192
新しい考えを知ることができたとき		26	30	39	38	36	169
わかりやすく説明することができたとき		25	37	38	24	18	142



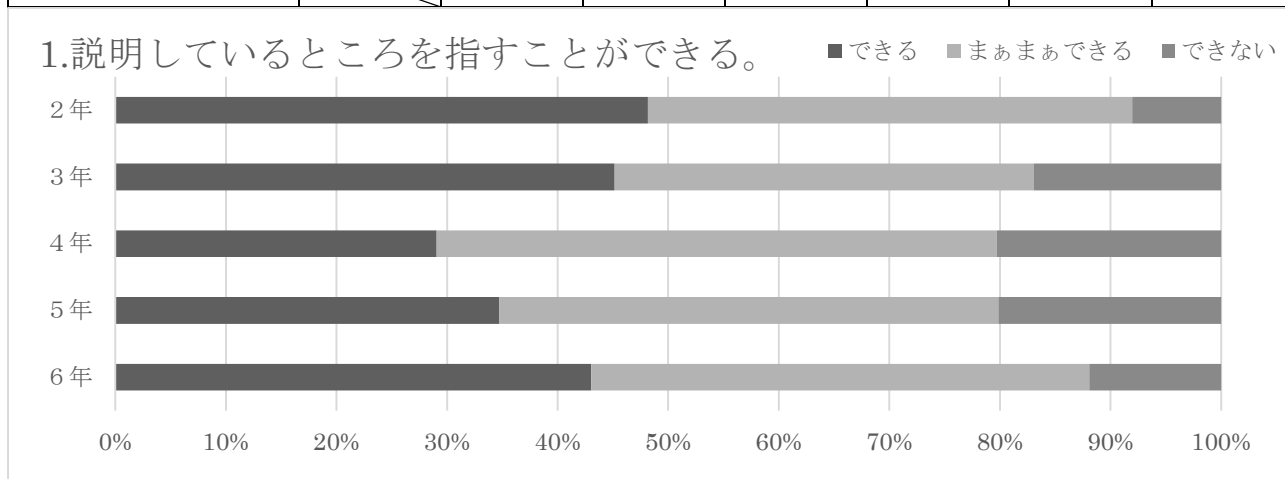
### 考察

昨年度に比べて一方的に考えを伝えるだけでなく、互いの考えを共有・確認することによさを見出す児童が増えた。これは、児童同士で学習する環境が整っていることや、昨年度の課題を活かして伝え合いを入れる場面を工夫したことによるものであると考えられる。

(イ) 伝え合いについてのアンケート

(1) 説明しているところを指すことができる。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
できる		66	56	43	50	65	280
まあまあできる		60	47	75	65	68	315
できない		11	21	30	29	18	109

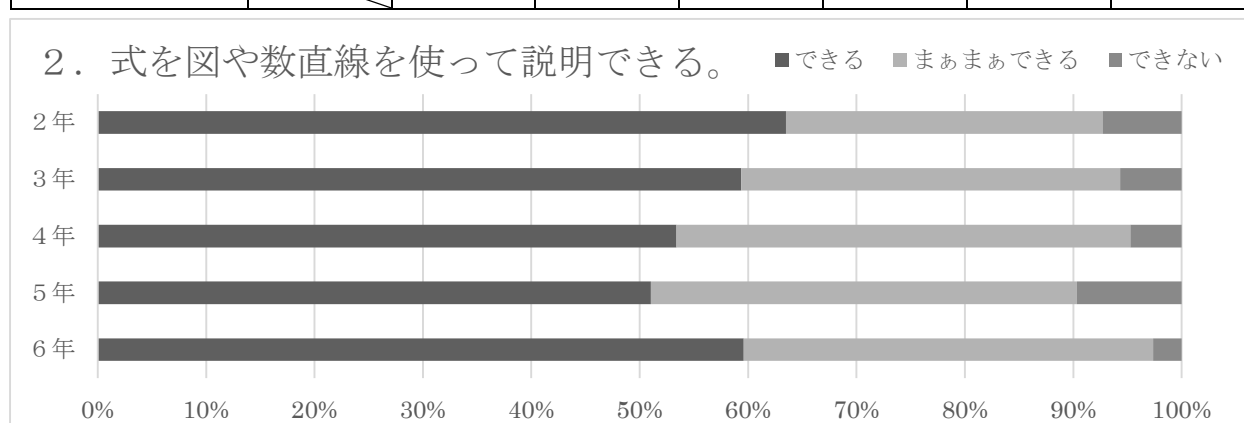


考察

指して説明することができる児童が約9割いる。教師の日常の指導の効果があると考えられる。

(2) 式を図や数直線を使って説明できる。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
できる		95	74	78	91	79	417
まあまあできる		36	43	58	46	57	240
できない		6	7	12	8	4	37

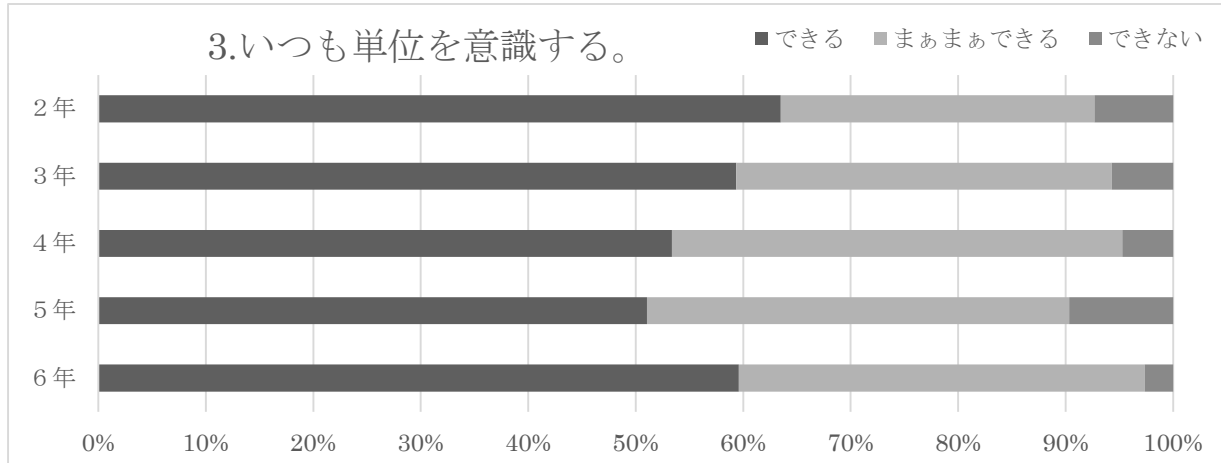


考察

約8割の児童ができていると感じている。学年が上がるにつれて、計算や文章題の文が複雑になるため、図や数直線に表すことが難しくなると考えられる。

### (3) いつも単位を意識する。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
できる		87	73	79	74	90	403
まあまあできる		40	43	62	57	57	259
できない		10	7	7	14	4	42

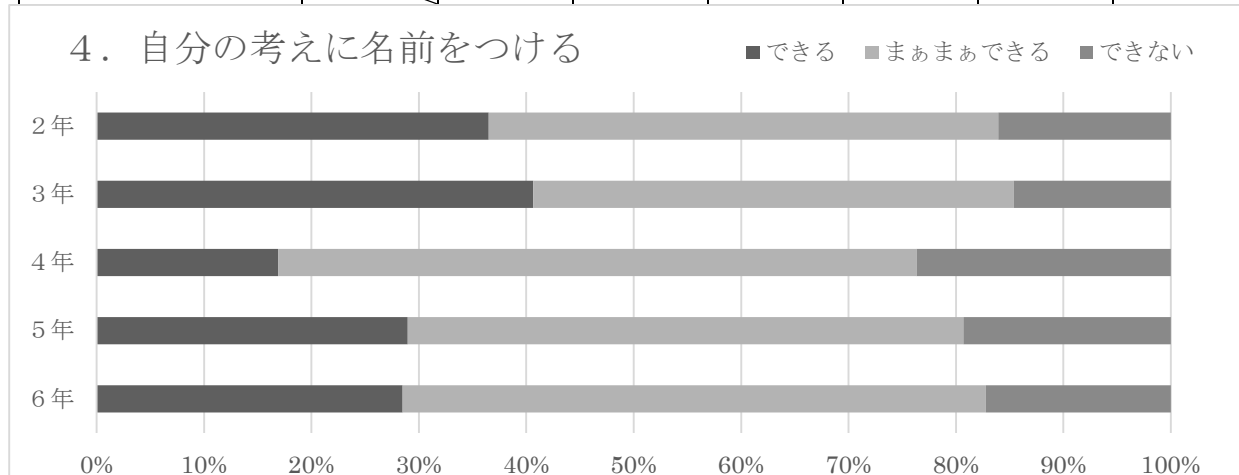


考察

単位を意識するように日常的に指導しているため、その効果が表れている。

### (4) 自分の考えに名前をつける。(人)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
できる		50	50	25	42	43	210
まあまあできる		65	55	88	75	82	365
できない		22	18	35	28	26	129



考察

学年が上がるにつれて、「できる」と感じている児童が少なくなる。それは、全体で練り上げたときに名前をつけることはあるが、個人で考える経験が少ないためであると考えられる。学校全体で名前の付け方のモデルがあるとよいのではないか。